

法人名	公益財団法人えひめ女性財団
-----	---------------

所管部(局)課 保健福祉部 男女参画・子育て支援課

令和 5 年 3 月 31 日 現在

1 法人の概要

代表者名	理事長 越智 やよい	ホームページURL	<a href="https://www.ehime-ioseizaidan.com/">https://www.ehime-ioseizaidan.com/</a>		
所在地	松山市山越町450番地 (男女共同参画センター内)	電話番号	089-927-1633		
基本金・資本金等	1,000,000 千円	設立年月日 (移行年月日)	平成3年 4月 1日 (平成25年 4月 1日)		
主な出資者	出資者名		出資額(千円)	出資比率(%)	
	愛媛県		1,000,000	100	
設立目的	男女が互いに人権を尊重し、性別にとらわれずそれぞれの個性と能力を十分に発揮しながら、あらゆる分野で対等に参画することにより、互いに利益を享受し、責任を分かち合える男女共同参画社会の実現に寄与する。				
設立の経緯及び経過	1975年の「国際婦人年」以降、国内外において女性の地位向上と男女平等の実現に向けた様々な動きがみられる中、愛媛県は平成3年に、県内の男女共同参画社会づくりを官民一体となって推進していくため、えひめ女性財団を設立。全県エリアを対象に、民間の経営ノウハウや男女共同参画に関する専門性を活かしながら様々な啓発事業を展開し、現在、県男女共同参画センターを活動拠点に男女共同参画社会づくりに継続的に取り組んでいる。				
主な事業内容	男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業を行っているほか、指定管理者として愛媛県男女共同参画センターの管理運営を行っている。			管理受託施設 (指定管理者施設を含む)	
				愛媛県男女共同参画センター	

2 組織の状況

(単位:人)

区分	令和元年度					令和2年度					令和3年度					令和4年度					増減	左記の増減理由
	合計	うち プロパー	うち (派遣)	うち (兼務)	うち OB	合計	うち プロパー	うち (派遣)	うち (兼務)	うち OB	合計	うち プロパー	うち (派遣)	うち (兼務)	うち OB	合計	うち プロパー	うち (派遣)	うち (兼務)	うち OB		
評議員	5	0	0	1	0	5	0	0	1	0	5	0	0	1	0	5	0	0	1	0	0	
常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤	5	0	0	1	0	5	0	0	1	0	5	0	0	1	0	5	0	0	1	0	0	
理事等	12	0	0	0	3	12	0	0	0	3	12	0	0	0	3	11	0	0	0	3	△1	
常勤	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	2	1	
非常勤	11	0	0	0	2	11	0	0	0	2	11	0	0	0	2	9	0	0	0	1	△2	
職員	23	3	0	0	9	23	3	0	0	9	23	3	0	0	9	23	3	0	0	9	0	
正規職員	4	3	0	0	1	4	3	0	0	1	4	3	0	0	1	5	3	0	0	2	1	
非正規職員	19	0	0	0	8	19	0	0	0	8	19	0	0	0	8	18	0	0	0	7	△1	
常勤職員	4	0	0	0	0	5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	
非常勤職員	15	0	0	0	8	14	0	0	0	8	15	0	0	0	8	14	0	0	0	7	△1	
県関係職員の実数	0	0	0	1	9	0	0	0	1	9	0	0	0	1	9	0	0	0	1	9		
県退職後2年内雇用OB	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2		
役員・職員の兼務等特記事項	理事等のうち非常勤職員の1名(県職員OB)は財団監事である。理事等のうち常勤職員2名(県職員OB)は、財団の正規職員である。																					

法人名 公益財団法人えひめ女性財団

3 実施事業評価表

(単位:千円、%)

事業名1	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)	
男女共同参画センター維持管理運営事業	経常費用	75,396	79,228	89,373	79,297	88,120	11.1	諸物価高騰に伴い光熱水費や消耗品費等が支出増となったほか、外壁タイルの大規模点検を実施したため	
	全体事業に占める割合(%)	72.80	72.05	73.41	73.04	73.55			
事業開始年度	令和元年度	うち県補助金等	63,594	66,975	80,216	70,678	76,898	8.8	
事業終了年度	令和5年度	全体事業に占める割合(%)	61.14	60.41	66.23	63.38	63.57		
成果指標	指標項目(単位)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由	
	センター利用者数(人)	60,005	63,905	33,598	31,568	49,720	57.5	センターの利用状況がわかるため	
	センター利用料金収入(千円)	10,143	11,111	8,350	7,776	10,503	35.1	センターの利用状況がわかるため	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	男女共同参画センターの施設維持管理、相談(配偶者暴力相談支援センター業務を含む)、情報収集提供、施設貸館等に関する業務を行う。(県内の男女共同参画の活動拠点として、男女共同参画社会づくりを推進する。意識啓発事業や相談、情報、交流等を通じて男女共同参画意識の高揚を図り、性別や年齢に関係なく、一人ひとりが様々な生き方を選択し、責任と利益を分かちあえる社会形成を目指す。活動拠点を最大限に活用し、県内におけるバランスよい男女共同参画意識の啓発を実施できた。)								

(単位:千円、%)

事業名2	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)	
エンパワーメントカレッジ開催事業	経常費用	3,370	3,124	2,868	2,622	2,976	13.5	諸物価高騰による消耗品費等の支出増によるほか、コロナ禍により中止していた一部事業を再開したため	
	全体事業に占める割合(%)	3.25	2.84	2.35	2.42	2.48			
事業開始年度	令和元年度	経常収益	3,183	2,969	2,816	2,527	2,807	11.1	経常費用増加に比例した按分率の増加に伴う収益増
事業終了年度	令和5年度	全体事業に占める割合(%)	3.06	2.67	2.32	2.27	2.32		
成果指標	指標項目(単位)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由	
	受講者数(人)	701	738	518	390	482	23.6	事業対象者であるため	
							-		
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	男女共同参画社会基本法及び愛媛県男女共同参画計画の趣旨に沿った、男女共同参画社会の形成を促進する研修を実施する。(県民の男女共同参画意識の向上を図るための意識啓発事業として実施し、各ライフステージにおける多様な生き方・考え方を模索する一助とした。また、松山市のみでなく、県内各開催市町との連携を図り事業を実施することで、男女共同参画に係る地域間格差の是正をはじめ、各自治体や地域住民とのネットワーク形成に役立てた。)								

(単位:千円、%)

事業名3	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)	
えひめ男女共同参画フェスティバル開催事業	経常費用	1,807	1,912	1,660	1,294	1,086	△16.1	講演料の変動による支出減	
	全体事業に占める割合(%)	1.74	1.73	1.36	1.19	0.91			
事業開始年度	平成3年	経常収益	1,626	1,990	2,508	1,697	1,229	△27.6	費用の減少に比例した按分率の減少に伴う収益減
事業終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	1.56	1.79	2.07	1.52	1.02		
成果指標	指標項目(単位)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由	
	参加者数(人)	900	900	300	250	900	260.0	事業対象者であるため	
							-		
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	男女共同参画に対する県民への意識啓発と機運醸成のため、基調講演や県内グループによる企画イベント、フリーイベント(ステージ発表、活動展示、即売等)を実施する。(県男女共同参画センター全館で2日間実施するイベントを、個人や団体・グループが、学習、交流、情報交換等の場として活用し、相互研鑽を図るとともに、参画に向けたネットワークづくりを形成している。また、財団事業における人材発掘・育成に繋げるほか、県内各地で実施する各種事業への参加協力を得ている。)								

(単位: 千円、%)

事業名4		区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
男女共同参画 こらぼねっとわーく 開催事業	経常費用		628	485	272	392	499	27.3	諸物価高騰による消耗品費等の支出増によるほか、コロナ禍により一部縮小開催していた事業を再開したため
	全体事業に占める割合(%)		0.60	0.44	0.22	0.36	0.42		
事業 開始年度	平成22年度	経常収益	565	505	412	514	564	9.7	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	0.54	0.45	0.34	0.46	0.47		
成果指標	指標項目(単位)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	参加者数(人)		143	144	103	80	101	26.3	事業対象者であるため
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	男女共同参画の理念を集中的に学習し、地域に根差した男女共同参画の視点や必要性を知ること、参画をより現実的なものにしていくため、愛媛大学や一般社団法人愛媛助産師会と連携・協働し、リーダー育成のための講座や子育てセミナーを開催する。また、県・市連携として、松山市男女共同参画推進財団との共同事業を開催する。(男女共同参画社会づくりに向け、テーマを細分化し、より専門的な学習を通して様々な分野での参画実践を推進している。また、共同事業を実施することで、関連情報や人材等、多くの情報を入手でき、ネットワークづくり形成にも役立てている。								

(単位: 千円、%)

事業名5		区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
性暴力被害者 支援センター 運営事業	経常費用		12,975	15,543	15,735	16,228	16,484	1.6	
	全体事業に占める割合(%)		12.52	14.13	12.92	14.95	13.76		
事業 開始年度	平成30年度	経常収益	12,975	15,543	15,735	16,228	16,484	1.6	
事業 終了年度	令和元年度	全体事業に占める割合(%)	12.47	14.01	12.99	14.55	13.63		
成果指標	指標項目(単位)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	相談受付件数(件)		119	172	309	351	584	66.4	相談状況がわかるため
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	性暴力被害者の尊厳を守り、心身に受けた被害の軽減、当該影響からの早期回復に資するため、365日24時間体制で、性暴力被害に対する専門相談に取り組む。また、必要に応じて、弁護士や臨床心理士による専門相談を実施する。 ※平成30年9月にえひめ性暴力被害者支援センターを開設した。								

(単位: 千円、%)

その他事業		区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
	経常費用		9,389	9,669	11,828	8,720	10,639	22.0	・諸物価高騰に伴う光熱水費や消耗品費等支出増 ・常務理事常勤化による人件費増 ・外壁タイルの大規模点検の実施
	全体事業に占める割合(%)		9.06	8.79	9.71	8.04	8.88		
	経常収益		22,057	22,882	19,417	19,863	22,977	15.7	コロナ沈静化により施設貸館収益が増収となったほか、大規模点検等による委託費増によるもの
	全体事業に占める割合(%)		21.20	20.63	16.03	17.82	19.00		

法人名 公益財団法人えひめ女性財団

(単位:千円、%)

4 財務状況

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (個々の項目で前年度10%前後の増減及び 当該年度特有の事情による増減があった場合に記入)
【正味財産増減計算書】	経常収益計	103,999	110,864	121,104	111,507	120,959	8.5	
	うち公益目的	78,785	84,640	95,446	87,178	94,367	8.2	
	うち基本財産運用益	16,268	16,268	16,268	16,268	16,268	0.0	
	うち公益目的	4,067	4,067	4,067	4,067	4,067	0.0	
	うち事業収益	10,594	11,419	8,459	7,939	10,909	37.4	コロナ沈静化により施設貸館収益が増収となったため
	うち公益目的	4,508	4,752	3,449	3,273	4,607	40.8	コロナ沈静化により施設貸館収益が増収となったため
	うち受取補助金等(委託料・負担金含む)	76,568	82,518	95,951	86,906	93,382	7.5	
	うち公益目的	70,209	75,821	87,930	79,838	85,693	7.3	
	経常費用計	103,565	109,961	121,736	108,554	119,804	10.4	・諸物価高騰に伴う光熱水費や消耗品費等支出増 ・外壁タイルの大規模点検の実施
	うち公益目的	86,019	91,068	99,271	91,267	99,654	9.2	
	うち事業費	95,978	101,620	110,504	100,981	110,442	9.4	
	うち公益目的	86,019	91,068	99,271	91,267	99,654	9.2	
	うち管理費	7,586	8,341	11,231	7,572	9,362	23.6	・常務理事常勤化による人件費増
	うち公益目的						-	
当期経常増減額	434	903	-631	2,953	1,155	△60.9		
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	-		
当期正味財産増減額	△66	348	-1,072	2,532	577	△77.2		
【貸借対照表】	資産	1,084,452	1,087,149	1,088,003	1,091,111	1,094,207	0.3	
	流動資産	54,969	55,864	57,117	59,301	61,927	4.4	
	固定資産	1,029,482	1,031,285	1,030,886	1,031,810	1,032,280	0.0	
	うち基本財産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0.0	
	負債	35,569	37,920	39,845	40,421	42,941	6.2	
	流動負債	10,532	11,080	10,674	10,326	12,376	19.9	事務所補助職員2名の退職に伴う退職金等の人件費増
	うち短期借入金	0	0	0	0	0	-	
	固定負債	25,037	26,840	29,171	30,095	30,565	1.6	
	うち長期借入金	0	0	0	0	0	-	
	正味財産	1,048,882	1,049,230	1,048,158	1,050,690	1,051,267	0.1	
	指定正味財産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0.0	
一般正味財産	48,882	49,230	48,158	50,690	51,267	1.1		
負債・正味財産合計	1,084,452	1,087,149	1,088,003	1,091,111	1,094,207	0.3		

【人件費内訳】

(単位:千円、%)

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
役員人件費		0	0	0	0	0	-	
職員人件費	うち事業費分	47,085	50,461	51,604	51,708	53,366	3.2	
	うち管理費分	3,449	3,528	5,121	2,677	3,783	41.3	常務理事常勤化による人件費増
	小 計	50,534	53,989	56,725	54,385	57,149	5.1	
合 計		50,534	53,989	56,725	54,385	57,149	5.1	

【県の財政的関与】

(単位:千円、%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
負担金	0	0	0	0	0	-	
補助金	0	0	0	0	0	-	
委託料	76,569	82,518	95,951	86,906	93,382	7.5	
うち指定管理委託料	63,593	66,975	80,216	70,678	76,898	8.8	
うち再委託額	11,907	12,384	11,819	11,789	11,886	0.8	
貸付額	0	0	0	0	0	-	
県支出金計	76,569	82,518	95,951	86,906	93,382	7.5	
貸付残高(期末)	0	0	0	0	0	-	
損失補償に係る債務負担残高(期末)	0	0	0	0	0	-	

【県の財政的関与の内訳】(R4年度)

(単位:千円)

区分	名称	金額	左記の内容 <small>※それぞれの始期を(終期が決まっている場合は終期も)記載すること。単年度のみ負担金等は、その旨を記載。 ※貸付金については、貸付期間も記載すること。</small>
負担金			
補助金			
委託料	愛媛県男女共同参画センター施設維持管理等委託費	76,898	愛媛県男女共同参画センターの指定管理業務委託料
	えひめ性暴力被害者支援センター運営委託費	16,485	えひめ性暴力被害者支援センターの運営委託料
貸付金			
損失補償			

【財務関係指標】

(単位:%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減	指標計算式
県財政支出依存度	73.6	74.4	79.2	77.9	77.2	△0.7	県からの補助金等(補助金・負担金・委託金)÷経常収益計×100
県受託事業の再委託度	15.6	15.0	12.3	13.6	12.7	△0.9	県からの受託事業の外部委託費÷県からの受託事業費×100
人件費比率	41.6	49.1	46.6	50.1	47.7	△2.4	人件費÷経常費用計×100
管理費比率	7.3	7.6	9.2	7.0	7.8	0.8	管理費÷経常費用計×100
正味財産比率(会社法人及び公社以外)	96.7	96.5	96.3	96.3	96.1	△0.2	正味財産÷(負債+正味財産)×100
流動比率	521.9	504.2	535.1	574.3	500.4	△73.9	(流動資産÷流動負債)×100
借入金依存率	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	(長期借入金+短期借入金)÷資産×100
公益目的事業比率	83.1	82.8	81.5	84.1	83.2	△0.9	(公益目的事業費)÷(公益目的事業費+収益事業等の費用+管理費)×100

5 役員会等の開催状況

(1) 令和4年度開催の役員会(理事会又は取締役会)の開催状況及び各役員(理事・監事又は取締役・監査役)の出席状況

	常勤 非常勤	社内 社外	開催日	R4.5.24	R4.6.11	R5.3.10	出席率 (代理出席含む)	備考	
				開催方式	対面	書面			対面
役員	理事A	非常勤	社内	出席状況	○	○	○	100%	
	理事B	常勤	社内		○	○	○	100%	
	理事C	常勤	社内		○	○	○	100%	
	理事D	非常勤	社外		○	○	○	100%	
	理事E	非常勤	社外		○	○	○	100%	
	理事F	非常勤	社外		○	○	○	100%	
	理事G	非常勤	社外		○	○	○	100%	
	理事H	非常勤	社外		○	○	○	100%	
	理事I	非常勤	社外		○	○	○	100%	
	理事J	非常勤	社外		○	○	○	100%	
	監事A	非常勤	社外		○	○	×	67%	
	監事B	非常勤	社外		○	○	○	100%	

【出席:○、代理出席:△、欠席:×、その他(年度途中の就退任等):—】

(2) 令和4年度開催の評議員会の開催状況及び出席状況

開催日	R4.6.15	R5.3.23
開催方式	対面	対面
出席人数	5	4
欠席人数	0	1

(3) 法人が各取締役、監査役、理事、監事に期待するスキル

		常勤 非常勤	社内 社外	経営、戦略	人事 人材育成	営業	技術	財務、会計 (財産の管理運用)	法務	ガバナンス 内部統制	その他 ( )
役員	理事A	非常勤	社内	○	○		○	○	○	○	
	理事B	常勤	社内	○	○	○	○	○	○	○	
	理事C	常勤	社内	○	○	○	○	○	○	○	
	理事D	非常勤	社外	○			○	○	○		
	理事E	非常勤	社外	○			○	○	○		
	理事F	非常勤	社外	○			○	○	○		
	理事G	非常勤	社外	○			○	○	○		
	理事H	非常勤	社外	○			○	○	○		
	理事I	非常勤	社外	○			○	○	○		
	理事J	非常勤	社外	○			○	○	○		
	監事A	非常勤	社外	○			○	○	○	○	
	監事B	非常勤	社外	○			○	○	○	○	
○のない理由 (当該スキルを役員に期待しない理由) 例 ・法人の事業内容と関係のないスキルであるため。 ・別に外部の専門家から助言や支援を受けているため。											

法人名 公益財団法人えひめ女性財団

6 法人の現状及び過去の評価結果

<p>法人の現状</p>	<p>○愛媛県男女共同参画センターを管理運営する法人として、民間の経営ノウハウや男女共同参画に関する専門性を発揮し、各種研修、相談(DV相談を含む)、情報提供等に取り組んでいる。 ○公益財団法人への移行については、平成24年10月に申請、審議会での答申後、平成25年4月1日付けで移行登記を完了した。</p>
<p>県出資法人改革プランに基づく最終点検評価結果 (平成22年度総評)</p>	<p>○男女共同参画社会推進のための県の拠点施設であり、愛媛県婦人相談所とともに配偶者暴力相談支援センターとして位置付けられている男女共同参画センターを管理運営する法人として、今後ともより専門性を発揮するとともに、当法人の事業の成果を一般県民に分かりやすく広く周知する取組みにも留意していただきたい。 ○限られた財源の中で、県・市町などとの役割分担に十分留意しながら事業の重点化・集中化を図られたい。 ○「非常勤である常務理事の常勤化」については、責任ある組織体制構築のためには必要不可欠であることから、経営基盤の充実・強化を図りながら、引続き検討していただきたい。 ○公益法人制度改革への対応では、具体的な手続きについてスケジュールの目途が立てられていないことから、速やかに内部で検討し、具体的な目標を定めて移行手続きを進めていただきたい。</p>
<p>県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果 (平成23～25年事業総括)</p>	<p>○男女共同参画センターの管理運営に当たり、徹底した光熱水費の節減を図り、評価期間を通じて安定した黒字を計上したことは評価できるが、公共施設としての役割と健全経営とのバランスに応じた適正な利用料金の設定について検討していただきたい。また、施設環境の改善や設備の充実を進め、利用者の利便性の向上を図るとともに、積極的な施設PR活動に取り組み、施設利用者数や利用料金収入の増加に努めていただきたい。 ○新公益法人体系への移行に伴い、役員体制の見直しを行い経営基盤の強化を図ったことは評価できるが、責任ある組織体制の構築を図るため、常務理事の常勤化について引き続き検討していただきたい。 ○県民サービスの向上を図るため、松山市男女共同推進財団との連携強化及び事業の充実・効率化に引き続き努めていただきたい。</p>
<p>県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果 (平成26～29年事業総括)</p>	<p>○各種研修事業については、これまでも言及してきているように、松山市男女共同参画推進財団やその他市町との連携、情報共有により、さらなる充実強化に引き続き積極的に取り組まれたい。 ○理事については、すべて非常勤であるが、常務理事について、常勤に近い週4日勤務としており、組織運営上支障を来さないよう配慮しているとのことであるが、名実ともに責任の所在を明確にする観点から、役員の方の常勤化について検討すること。 ○男女共同参画センターで実施する研修業務のプログラム内容は「リーダーからイクボスへ」や「花咲くなでしこ応援塾」等、話題性のあるもので構成しているものの、現状では県民に新規性が十分伝わっていないため、広報を工夫して財団の取組を一層周知すること。</p>



7 令和元年から令和4年における2次評価内容

<p>令和元年</p>	<p>①30年度の財務状況は、当期経常増減額が、29年度の-2,781千円から+434千円に黒字転換、一般正味財産は29年度より66千円減少したものの、大きく改善した。これは、愛媛県男女共同参画センター開館30周年に併せて強化していた広報宣伝活動が終了したことが要因であるが、引き続き、適切な運営に努めること。</p> <p>②30年度からの「えひめ性暴力被害者支援センター運営事業」の実施に伴い、職員の増員など体制整備を行っているが、求められる機能が最大限発揮されるよう、効果的・効率的な運営や関係機関との連携、情報発信などに努めること。</p> <p>③ホームページにおいて、各種セミナー・講座等の受講風景を掲載するなど、分かりやすい情報提供に努め、各種事業への参加者や施設利用者の更なる拡大を図っていることは評価できる。引き続き、(公財)松山市男女共同参画推進財団と連携するなど、より効果的かつ効率的な業務の推進に努めること。</p> <p>なお、財務状況に関する情報の公開・提供(ホームページ・パンフレット等)に当たっては、説明責任を果たすためにも、正確で分かりやすい表現に努めるほか、事業ごとの具体的な状況(収支・成果)の記載にも努めること。</p>
<p>令和2年</p>	<p>①元年度の財務状況は、県委託費及び貸館収益の増により、当期経常増減額が、30年度の+434千円から+903千円に黒字額が増加、一般正味財産は30年度より348千円増加した。引き続き、適切な運営に努めること。</p> <p>②元年度から、一部の講座やイベントについて、インターネットを利用した申込受付を可能にし、利便性の向上に取り組んだことは評価できる。また、新型コロナウイルス感染症への対策としてオンライン研修環境の整備等に取り組んでいるが、今後も、利用者のニーズを適切に把握し、安全性、利便性の向上に努めること。</p>
<p>令和3年</p>	<p>①2年度の財務状況は、男性相談の開始に伴う人件費の増等により、当期経常増減額が、元年度の+903千円から-631千円に赤字転換し、一般正味財産は元年度より1,072千円減少した。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症により、各種事業の縮小・中止や貸館利用料の減収等の影響があったものの、感染防止対策として、施設内のトイレ改修等を早期に実施したほか、オンライン利用に対応するためのLAN配線の整備など、施設利用の回復に向けて取り組んだほか、新たに男性相談を開始し、相談事業の拡充に取り組んだことは評価できる。引き続き、利用者のニーズを適切に把握し、利便性の向上及び利用の促進に努めること。</p> <p>③組織運営については、収支予算や事業の推進に関して数値化した目標を設定し、役員の評価・助言を受けながら運営を行うなど、マネジメント力の向上に取り組んでいることは評価できる。引き続き、適切な運営に努めること。</p>
<p>令和4年</p>	<p>①3年度の財務状況は、当期経常増減額が、2年度の-631千円から2,953千円に黒字転換し、一般正味財産は2年度より2,532千円増加した。また、原油価格高騰等による光熱費の増額に対し、貸館施設の照明のLED化など設備面の見直しにより、効率的に経費節減に努めていることは評価できる。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症により、貸館利用料の減収等の影響があったものの、感染防止対策として、自動検温器の設置のほか、講座の開催を対面形式からオンライン形式に変更するなど、事業の円滑な実施に取り組んだことは評価できる。引き続き、利用者のニーズを適切に把握し、安心して利用できる環境整備や、利便性の向上及び利用の促進に努めること。</p> <p>③(公財)松山市男女共同参画推進財団と継続的に連携し、事業の充実、効率化を図るとともに、新たにツイッターを開設し、情報発信の強化に努めたことは評価できる。今後も、フォロワーの増加を図るなど、認知度の向上に努めること。</p>

8 県出資法人経営評価指針に基づく今後の課題と取組実績

(1) 出資法人の自主性・自立性の向上

○組織体制の見直し、役職員数及び給与制度の見直し

取り組むべき課題		○柔軟で効率的な組織体制の構築及び人材の育成・資質向上と継続的な人材確保
取組内容	共通	○業務量に応じた柔軟な組織体制を形成するとともに、財団の経営状態を念頭に、業務内容や能力・経験・知識等に応じた給与・賃金の改善等を適宜検討し、人材の確保や流出防止に努める。
	令和4年	○組織体制を強化するため、非常勤であった常務理事を常勤とした。
	令和5年	
	令和6年	
	令和7年	

○経営基盤の充実強化、経営におけるPDCAサイクルの実践

取り組むべき課題		○男女共同参画センターの施設利用の促進及び運営経費(光熱水費等)の節減。
取組内容	共通	○施設利用PR及び安全性・利便性を重視した迅速な改修・修繕。運営経費(光熱水費等)の継続的な節減
	令和4年	○第1、第2、第3会議室のLAN配線工事を行い、貸館施設のネット利用環境を整備した。また、各会議室やトイレの照明をより照度の高いLED照明に取り替え、利用者の利便性向上を図るとともに光熱水費削減に取り組んだ。
	令和5年	
	令和6年	
	令和7年	

(2) 県の関与の適正化

○財政的関与の見直し

取り組むべき課題		○適正な業務運営及び施設管理のための財源の確保
取組内容	共通	○指定管理委託料の効率的かつ柔軟な予算執行及び施設利用収入の一定水準の確保
	令和4年	○LAN配線の拡張や貸館施設等の照明のLED化、施設老朽化に伴う施設・付属設備等の迅速な改修善を行うなど、利便性の向上や施設の環境整備による施設利用の促進を図ったほか、物価(光熱水費等)が高騰する中で県と財団が協議し、施設老朽化に伴い増大する改修繕の可能な限り効率的な実施と財源の確保に努めた。
	令和5年	
	令和6年	
	令和7年	

○人的関与の見直し

取り組むべき課題		○県職員OBの配置	
取組内容	共通	○当財団と愛媛県との十分な連携を図るため、充て職ではなく、意欲や経験・知識を有する適任者を選任するという観点等からやむを得ないとする。	
	令和4年	○特になし	
		プロパー職員の採用・育成に係る取組	オンラインで開催される各研修会に積極的に職員を参加させ、資質の向上及び情報の共有を図ったほか、出前講座の講師として、男女共同参画に関する幅広い知識の習得や講義手法等、自己研鑽を図らせた。
	令和5年	プロパー職員の採用・育成に係る取組	
		令和6年	プロパー職員の採用・育成に係る取組
令和7年	プロパー職員の採用・育成に係る取組		

○出資法人の活用

取り組むべき課題		○男女共同参画センターの指定管理者でもある出資法人との連携	
取組内容	共通	○男女共同参画センター管理運営及び男女共同参画事業の実施	
	令和4年	○出資法人と連携し、男女共同参画センター管理運営及び男女共同参画事業を実施	
	令和5年		
	令和6年		
	令和7年		

※特に、産業振興や地域活性化への関与、貢献に当たる取組みや事業を記載してください。

(3) 法人情報等の積極的な開示等

○法人情報の公開

取り組むべき課題		○財団及び財団が実施する事業についての情報公開	
取組内容	共通	○HPや広報誌等による情報提供	
	令和4年	○HP等による情報提供やSNSを活用した各種情報の周知に努めた。	
	令和5年		
	令和6年		
	令和7年		

○認知度の向上

取り組むべき課題		○広報誌の発行やHPの迅速な更新等による充実した情報提供の実施
取組内容	共通	○受講風景写真等の添付によるわかりやすい情報提供
	令和4年	○HP等による情報提供やSNSを活用した各種情報の周知に努めた。
	令和5年	
	令和6年	
	令和7年	

9 令和5年度評価(令和4年度実績)

(1)1次評価

法人による評価	<p>令和4年度は前年度に引き続きコロナ禍対応を考慮しながらの事業運営となったが、年度途中からコロナの感染状況が沈静化してきたこともあり、概ね年度当初の計画どおりに事業を進めることができた。</p> <p>貸館業務については8月23日～9月16日の期間で貸館の新規予約受付を停止するなど、コロナ禍による影響が少なからずあったものの、年度全体を通して見ると利用件数、利用人数ともに前年度を大きく上回り、利用料金収入もコロナ禍以前の収入額と同程度まで回復した。</p> <p>研修事業についても中止、延期をすることはなく概ね計画通りに実施することができた。前年度までリモートで開催していた一部事業を対面式に戻して実施したほか、これまでに取り揃えたオンライン用機器を引き続き活用してハイブリッド形式での研修も実施し、遠方から参加も考慮するなど幅広い受講者層に対応できるようにした。また、コロナ禍により2年連続縮小開催となっていたえひめ男女共同参画フェスティバルを通常規模で開催することとなったが、館内での手指消毒や換気など感染対策を徹底したことで大きなトラブルなどはなく、円滑に実施することができた。</p> <p>経営状況の面では、貸館収益の増収や県委託費の増加等により令和4年度は最終的に収支の黒字化を達成することができたが、昨今の物価高騰により各支出が増額しているところである。とくに光熱水費については著しい高騰が続いており、財団経営を圧迫している状況である。光熱水費削減の一環として、かねてから館内照明を順次LED照明に改修をしているが、経費対策としてのみならず、近い将来白熱電球や蛍光灯の供給が停止することも見据えて計画的かつ早急に進めていく必要があると考えている。</p>
法人所管課による評価	<p>公益法人移行(H.25.4月)後も引き続き利用者のニーズを把握し、利用目的に対応した機器の配備や修繕を行う等利用しやすい施設づくりに努めている。機動力のある運営姿勢が施設利用料収入につながっているものとするほか、収益の一部を施設の改善に充当し、利用者の安全性・利便性の向上に取り組んでいることは評価できる。また、令和4年度は、前年度までリモートで開催していた一部事業を対面式に戻して実施したほか、ハイブリッド形式での研修も実施するなど、状況に応じて適切に事業を実施している。今後とも、個性や能力を発揮できる男女共同参画社会の実現を目指し、実施事業を一層充実させるほか、地域グループや企業・団体等に対する施設利用の働きかけを強化する等、県の拠点施設としての機能充実を期待している。</p> <p>平成30年度より、えひめ性暴力被害者支援センターの運営(H30.9月相談開始)委託を行っており、被害者への相談業務に取り組んでいる。相談開始にあたり、専門講師による実務的な研修を実施し、支援員の養成を充実するとともにワンストップでの支援に向けて関係機関との連携を図った点を評価しており、今後も被害者に寄り添った支援を期待している。</p> <p>松山市男女共同参画推進財団と連携し、平成24年度から、県・市財団双方のホームページのリンクや、図書の蔵書検索・相互返却サービスの開始、共同事業の実施などに取り組んでおり、事業の充実・効率化を図っている。</p>

## (2) 2次評価

- ①4年度の財務状況は、当期経常増減額が、3年度の+2,953千円から+1,155千円に減少したものの2期連続の黒字となり、一般正味財産は3年度と比べて577千円増加した。またLAN配線の拡張を実施したほか、貸館施設の照明のLED化など設備面の見直しを進めており、利用者の利便性向上と経費節減に努めていることは評価できる。
- ②新型コロナの感染状況を加味しながら、前年度までリモートで開催していた一部事業を対面方式に戻して実施しているほか、これまでに取り揃えたオンライン用機器を活用してハイブリット形式での研修も実施するなど、柔軟に事業を実施している点は評価できる。引き続き、利用者のニーズを適切に把握し、利便性の向上及び利用の促進に努めること。
- ③(公財)松山市男女共同参画推進財団と継続的に連携し、ホームページの相互リンクや、図書館の蔵書検索・相互返却サービスの実施など、連携強化のための取組みを行っていることは評価できる。今後も、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発等を図るため、更なる連携強化や事業の充実・効率化に努めること。